

もの言う牧師のエッセー 第34話

「アヴェンジャーズ」

複数のアメコミヒーローが活躍するアヴェンジャーズが大ヒットしたが、昭和のオジサンである私がみると、昔テレビで見た“仮面ライダー総登場”とか“ウルトラの家族”のように思えてしまう。

監督のジョス・ウィードンは根っからのアニメオタクで知られるが、ますます日本を思い出す。なぜなら日本はまさにアニメオタクの“総本山”。どこもかしこもアニメキャラ、ヒーローだらけだ。

周知の通り、宇宙の創造者としての“唯一の神”を信じる日本人は1%程度しかおらず、“複数”の神々を信じる人々はウジャウジャいる。神を信じない人、いわゆる無神論者は仮想の“ヒーロー”が好きなのだろうか？

実はウィードン監督はバリバリの無神論者である。おまけに彼は哲学の実存主義のカミュやキルケゴールで有名な“不条理主義者”と言ってはばからない。なるほど苦勞の連続たる人の一生が不条理だらけだからこそ、彼はアヴェンジャーズの様な“神々”を夢見るのだろうか？

かと言って彼は単なる子供じみた夢想家ではないようだ。彼の卒業したウェズリアン大学は、全米で最も入学の困難な大学の1つとされ、ハーバードやプリンストン並みのSATスコア2100点を取るという“Little Ivy”きっての名門校だ。しかし皮肉なことに同大学は18世紀に活躍した世界的牧師ジョン・ウェスレーの名を冠した“教会”が発足した大学なのである。聖書は言う。

「悟りのある者はその顔を知恵に向け、愚かな者は目を地の果てに注ぐ。」箴言 17章 24節

と。ここで言う“知恵”とは神であるキリストを指す。本来なら我々は知恵の源である神を求めるところを、アニメのような空想話にそれてしまいがちだ。聖書に出てくるイスラエルの民もそうだった。だが唯一の神こそ本当のヒーローなのだ。

